



SUPPORTIVE CARE IN CANCER	Psychological characteristics and subjective symptoms as determinants of psychological distress in patients prior to breast cancer diagnosis.	山本賢司	精神神経科
こころの科学	小児期の発達障害	井上勝夫	精神神経科
老年精神医学雑誌	【高齢者の身体的心氣的訴え】高齢者の口腔内セネストパチー	宮地英雄	精神神経科

(精神神経科計 3件) (精神神経科計15件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績 (1)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurol Med Chir (Tokyo)48:95- 98, 2008	Auditory alert system for fluorescence-guided resection of gliomas	Utuki S, Oka H, Miyajima Y, et al	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo)48:191- 194, 2008	Supratentorial craniotomy using a threadwire saw: technical note	Shimizu S, Utsuki S, Suzuki S, et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 119-123, 2008	Course of the bony canal associated with high-positioned supraorbital foramina: an anatomic study to facilitate safe mobilization of the supraorbital nerve	Shimizu S, Utsuki S, Suzuki S et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 124-125, 2008	Modified irrigation hose placement in draping for craniotomy: provision of a free space for surgeons: technical note	Shimizu S, Miyazaki T, Suzuki S, et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 329-332, 2008	Bony tunnel formation in the middle meningeal groove: an anatomic study for safer pterional craniotomy	Shimizu S, Hagiwara H, Utsuki S, et al	脳神経外科
Interv Neuroradiol 14:; 137-141, 2008	Efficacy of selective transarterial chemotherapy using a port system for angiosarcomas of the face and scalp	Iwamoto K, Suzuki S, Kurata A et al	脳神経外科

(脳神経外科計6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績 (2)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intervent Neuroradiol 14: 179-184, 2008	Relationship between focal inflammation and symptomatic intracranial aneurysms	Suzuki S, Kurata A, Iwamoto M, et al	脳神経外科
Minim Invas Neurosurg	Endovascular surgery using stents for vertebral artery dissecting aneurysms and a review of the literature	Suzuki S, Kurata A, Iwamoto M, et	脳神経外科
Neuroradiology Published on line July 2009	Direct Puncture approach of the extraconal portion of the superior ophthalmic vein for carotid cavernous fistulae	Kurata A, Suzuki S, Iwamoto K	脳神経外科

(脳神経外科計 3件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Journal of Dermatology 18 (5), p. 518-523 2008	Hair follicle stem cell marker nestin-expression in epidermal and follicular tumors.	Kanoh Maho, <u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u>	皮膚科
Cell Cycle 7 (12), p. 1865-1869, 2008	Multipotent hair follicle stem cells promote repair of spinal cord injury and recovery of walking function.	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Cell Cycle 8 (1), p. 176-177, 2008	Human and mouse hair follicles contain both multipotent and monopotent stem cells	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Current Pharmaceutical Design 14(36), p. 3810-9 , 2008	Color-coded fluorescent protein imaging of tumor angiogenesis: the angiomouse® models	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Journal of Dermatology 36(1), p. 1-9, 2009	Multipotent nestin-expressing hair follicle stem cells	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
生化学 Vol. 80, No. 7 p. 638-641 2008	皮膚毛包幹細胞による再生医療の可能性	<u>天羽 康之</u> , 勝岡 憲生	皮膚科

(皮膚科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci, 267: 41-47, 2008	Histopathology of central nervous system lesions in Behçet's disease.	Hirohata S	膠原病感染内科
Rheumatol Int, 28: 673- 676, 2008	Comparison of trimethoprim-sulfamethoxazole and aerosolized pentamidine for primary prophylaxis of Pneumocystis jiroveci pneumonia in immunocompromised patients with connective tissue disease.	Hirohata S	膠原病感染内科
Arthritis Rheum. 58:1130-1135, 2008	Association of cerebrospinal fluid anti-NR2 glutamate receptor antibodies with diffuse neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Hirohata S	膠原病感染内科
Allergol Int. 57:147-155, 2008	Enhanced Production of IgE Anti-Japanese Cedar Pollen Specific Antibodies by Peripheral Blood B Cells from Patients with Japanese Cedar Pollinosis.	Hirohata S	膠原病感染内科
J Neurol Sci, 272:71-6, 2008	Reversible focal neurological deficits in systemic lupus erythematosus: Report of 2 cases and review of the literature.	Hirohata S	膠原病感染内科
J Neurol Sci, 272: 99-105, 2008	Effect of infliximab in progressive Neuro-Behçet's syndrome.	Hirohata S	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Immunopharmacol, 9: 86-90, 2009	Differential influences of bucillamine and methotrexate on the generation of fibroblast-like cells from bone marrow CD34+ cells of rheumatoid arthritis patients.	Hirohata S	膠原病感染内科
膠原病の診断、治療開始とフォローの実際—Behcet病.	膠原病の診断、治療開始とフォローの実際—Behcet病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
内科, 101: 732-744, 2008	座談会 わが国における膠原病診療の現状と展望.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
総合臨床 57(増刊): 1327-1329, 2008	新版 処方計画法 VIII. リウマチ結合織疾患 166. ベーチェット病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
ドクターサロン, 52:330-333, 2008	ベーチェット病患者の妊娠.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
最新医学 63: 887-888, 2008	全身性エリテマトーデス(SLE)-病態解明と治療の新たな展開- 序論	廣畑 俊成	膠原病感染内科
最新医学 63: 939-946, 2008	全身性エリテマトーデス(SLE)-病態解明と治療の新たな展開- 中枢神経ループス	廣畑 俊成	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内科、 101:1445- 1448, 2008	内科必携画像診断-Imaging Revolution- VI. 膠原病・免疫・ア レルギー 10. Behcet病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
臨床リウマチ 20: 107-112, 2008	CNSループスの病態と診断・治療.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Medical Practice、 25:1365-1368, 2008.	膠原病に併発する中枢神経障害とそ の治療.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Medico 39: 452-462, 2008	膠原病診療の最近の進歩と今後の展 望.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
リウマチ科 40: 519-515, 2008	リウマチ性疾患診療に関連した神経 病変の診断と治療：神経ベーチェッ ト.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
小児リウマチ 1: 15-20, 2008	抗リウマチ薬の基礎と臨床- 作用機 序から使い方まで-.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
内科 103: 349-354, 2009.	目で見える症例 混合性結合組織病 (肺高血圧症) .	田中 住明	膠原病感染内科

(膠原病感染内科 7件)



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本医事新報 4421: 44-47, 2009	全身性エリテマトーデスの長期管理.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
日本臨床免疫 学会会誌, 32: 43-47, 2009	全身性エリテマトーデスとプロテオ ミクスを用いた自己抗原の解析.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
リウマチ科 41: 121-126, 2009	抗NR2グルタミン酸レセプター抗体と 中枢神経ループス.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
医学書院、 p. 616-619, 2008.	14. 膠原病及び類縁疾患 全身性エリ テマトーデス. 「今日の治療指針 2008」	廣畑 俊成	膠原病感染内科
文光堂、 p. 420-423, 2008.	4. 自己免疫疾患・アレルギー疾患・ 免疫不全. VIII. ベーチェット病. 「わかりやすい内科学」第3版	廣畑 俊成	膠原病感染内科
別冊 日本臨 床、日本臨床 社、p. 312- 315, 2008	IX. 大動脈疾患 血管Behçet病. 新 領域別症候群No. 6 「循環器症候群 (第2版)III」	廣畑 俊成	膠原病感染内科
ホームメイ カ 新版「家 庭医学大事典 初版」p. 2030- 2033, 2009.	免疫異常による病気 全身性エリテ マトーデス.	廣畑 俊成	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
「新臨床内科学（第9版）」、 医学書院、 p. 1477-1483、 2009.	第11章 リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、免疫不全 9. Behçet（ベーチェット）病（Behçet症候群）.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Rheumatol Int, 29(4):441-3. 2009	Henoch-Schönlein pupura complicated by perforation of the gallbladder.	橋本 篤	膠原病感染内科
北里医学, 38 : 130-133, 2008	原因不明の血球貪食症候群および低 蛋白血症の1症例	橋本 篤	膠原病感染内科
臨床リウマ チ, 20 : 302- 309, 2008	全身性エリテマトーデスに合併しス テロイド大量療法が奏功した骨髓線 維症の1例	橋本 篤	膠原病感染内科
強皮症のすべて が分かる本, 75- 78, 2008	消化管障害、強皮症のすべてが分かる 本、文光堂	遠藤 平仁	膠原病感染内科
臨床研修プラッ クテイス, 30- 35, 2008	ステロイドの使い方のコツ2注射剤の使い 方、研修医のためのステロイドの使い方— 内用、注射、外用	遠藤 平仁	膠原病感染内科
リウマチ科, 337 —342, 2008	強皮症腎、強皮症の病態とマネージメン ト、	遠藤 平仁	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)

(膠原病感染内科合計 34件)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床体液35	オメプラゾールにて著明な高カリウム血症を呈した短腸症候群を伴う末期腎不全の一症例.	中野素子	腎臓内科
腎炎症例研究 25	Wire loop様病変の光顕所見を呈した非SLEの一例	佐野隆	腎臓内科

(腎臓内科計 2件)

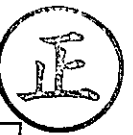
- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Res Adv in Urol	Recent advances in molecular markers for bladder cancer.	松本 和将	泌尿器科
INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY	Reclassification of the current tumor, node, metastasis staging in pT3 renal cell carcinoma	藤田哲夫	泌尿器科
UROLOGY	Loss expression of uroplakin III is associated with clinicopathologic features of aggressive bladder cancer.	松本和将	泌尿器科
UROLOGY	Distribution of lymphatic Vessel Network in Normal Urinary Bladder	松本和将	泌尿器科
CANCER LETTERS	Identification of copy number alterations and its association with pathological features in clear cell and papillary RCC	松田大介	泌尿器科
日本泌尿器科学会雑誌	前立腺癌のアンドロゲン除去療法におけるビスフォスフォネートの臨床的意義	木村将貴	泌尿器科
今日の移植	腎移植におけるミコフェノール酸モフェチルの血中濃度管理とその有用性	吉田一成	泌尿器科

(泌尿器科計 7件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Interact. CardioVasc. Thorac. Cardiovasc. Surg	Miniaturized cardiopulmonary bypass system in neonates and small infants.	宮地 鑑	心臓血管外科
Interact. CardioVasc. Thorac. Cardiovasc. Surg	Thermal coronary angiography in pediatric coronary artery bypass grafting.	宮本隆司	心臓血管外科
J. Cardiothorac. Surg.	Higher cerebral oxygen saturation may provide higher urinary output during continuous regional cerebral perfusion.	宮本隆司	心臓血管外科
Ann. Thorac. Surg.	Optimal conduit size of the extracardiac Fontan operation based on energy loss and flow stagnation.	板谷慶一	心臓血管外科
体外循環技術	小児開心術における予防的抗菌薬の体内動態に関する検討	古平 聡	心臓血管外科
北里医学	小児ペーシングリード破損および植込み部位の検討	須藤恭一	心臓血管外科
日本冠疾患学会誌	CABG後遠隔期グラフト評価におけるMDCTの有用性	鳥井晋造	心臓血管外科
体外循環技術	小児無輸血開心術における血液希釈と周術期因子との関連についての検討	古平 聡	心臓血管外科
日本冠疾患学会誌	C A B G 後遠隔期グラフト評価における M D C T の有用性.	鳥井晋造	心臓血管外科

(心臓血管外科計 9件)

論文発表等の実績総合計 233件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 () ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (1) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療の安全性の向上に関すること (診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、 事故発生時の対応状況についての確認と指導) 安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関すること 医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関すること リスクマネジャーとの連絡調整に関すること 医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関すること リスクマネジメント委員会の運営に関すること 医療訴訟、和解に係る事務に関すること その他、医療事故の防止、医療安全管理に関すること 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理に関する基本的考え方 (基本理念、基本姿勢) 安全管理のための委員会、組織に関する基本的事項 安全管理のための職員研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための基本方針 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者からの相談への対応に関する基本方針 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止活動全般に関すること 医療事故発生に伴う対応に関すること 医療事故調査によるフィードバックに関すること 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全講演会 (リスクマネジメント 2 回・院内感染防止対策 2 回。計 4 回開催) 新規採用者研修 (研修医・コメディカルのオリエンテーション時の研修。4 月実施) ME 機器取扱い講習会 (4 月実施) 看護師フォローアップ研修会時の研修 その他 (KYT 研修、薬剤適正使用研修等) 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価 リスクマネジメント委員会による改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック (リスクマネジメントニュースによる周知、 各種マニュアルの作成、機器・器具類の改善等) 	



(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 高橋 修
閲覧担当者氏名	総務課長 潮田 好美
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	76.7%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数	24,997人	
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,374人	
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	3,159人	
	D:初診の患者の数	41,063人	

(注)1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 藤井 清孝
管理担当者氏名	事務部長 高橋 修

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理課	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号(患者番号7桁)を設定。 中間位桁分類法を採用し、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
確保の状況 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター部 総務課 医事課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">所属職員：専任 (4) 名 兼任 (1) 名活動の主な内容： 医療の安全性の向上に関する事 (診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、 事故発生時の対応状況についての確認と指導) 安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関する事 医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関する事 リスクマネージャーとの連絡調整に関する事 医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関する事 リスクマネジメント委員会の運営に関する事 医療訴訟、和解に係る事務に関する事 その他、医療事故の防止、医療安全管理に関する事	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方 (基本理念、基本姿勢) 安全管理のための委員会、組織に関する基本事項 安全管理のための職員研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための基本方針 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者からの相談への対応に関する基本方針	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： 医療事故防止活動全般に関する事 医療事故発生に伴う対応に関する事 医療事故調査によるフィードバックに関する事	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容 医療安全講演会 (リスクマネジメント 2 回・院内感染防止対策 2 回。計 4 回開催) 新規採用者研修 (研修医・コメディカルのオリエンテーション時の研修。4 月実施) ME 機器取扱い講習会 (4 月実施) 看護師フォローアップ研修会時の研修 その他 (KYT 研修、薬剤適正使用研修等)	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)その他の改善のための方策の主な内容： 安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価 リスクマネジメント委員会による改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック (リスクマネジメントニュースによる周知、 各種マニュアルの作成、機器・器具類の改善等)	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置



① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無																				
<p>・ 指針の主な内容：平成 21 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針を定めている。</p>																					
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回																				
<p>・ 活動の主な内容：平成 20 年度 1 年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会（ICC）は、原則として毎月第 4 水曜日午後 5 時から開催した。</p> <p>(2) ICC の議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC 運営や院内感染対策チーム（ICT）などの運営に関すること、ICT 活動報告、定期報告、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告は、前月の分離菌や薬剤耐性菌、法令規定の感染症病原菌の検出状況、ウイルス抗原検査状況、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び病原体検出速報、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告である。</p>																					
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回																				
<p>・ 研修の主な内容：平成 20 年度 1 年分</p> <p>(1) 採用時研修は、新入職員は入職時年 1 回、医師・看護師は随時実施した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は年 2 回開催した。また、全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各 3 回開催した。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>内容</th> <th>対象</th> <th>演者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H200528</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>改訂院内感染の手引</td> <td>全職員</td> <td>感染管理室 室長補佐</td> </tr> <tr> <td>H200613</td> <td>臨床講義室</td> <td>抗菌薬の適正使用</td> <td>医師</td> <td>高山 陽子</td> </tr> <tr> <td>H201008</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>国内外での話題の感染症</td> <td>全職員</td> <td>国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	会場	内容	対象	演者	H200528	合同講義室ほか	改訂院内感染の手引	全職員	感染管理室 室長補佐	H200613	臨床講義室	抗菌薬の適正使用	医師	高山 陽子	H201008	合同講義室ほか	国内外での話題の感染症	全職員	国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦
開催日	会場	内容	対象	演者																	
H200528	合同講義室ほか	改訂院内感染の手引	全職員	感染管理室 室長補佐																	
H200613	臨床講義室	抗菌薬の適正使用	医師	高山 陽子																	
H201008	合同講義室ほか	国内外での話題の感染症	全職員	国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦																	
<p>(3) 病院内全職員を対象に、手洗い検証セットを利用して「手洗い技術チェック」を実施した。</p> <p>(4) リンクスタッフの会合を 10 回開催し、感染対策のポイント研修を盛り込み実施した。</p>																					
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																					
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 ・ 無） 平成 21 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 病原体検出時の臨床検査部門からの検査結果速報による把握（届出感染症や大学病院指定感染症の病原体、多剤耐性菌、教職員・学生より食中毒の原因病原体検出時に速報する）。</p> <p>(2) 臨床診断による感染症・食中毒発生報告</p> <p>(3) サーベイランスによる発生把握（手術部位、血管内・尿道留置カテーテル、人工呼吸器関連肺炎）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策は、平成 19 年 4 月設置の病院長直轄の「感染管理室」を中心に対応・対策した。</p> <p>(2) 『院内感染防止対策の手引 2008 年版（第 17 次改訂版）』を平成 20 年 4 月 1 日付で発行した。</p> <p>(3) 新型インフルエンザ対策行動計画第 1 版を制定した（平成 21 年 2 月 5 日）。</p> <p>(4) 毎週水曜日、ICU・小児病棟の感染症回診を、年間を通じて感染や病原体等に係る質問に対してコンサルテーションした。</p> <p>(5) ICT 活動は、毎週 1 回環境、抗菌薬・耐性菌や血液由来菌の巡視を実施した。</p> <p>(6) 年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行時の対策、結核対策、食中毒対策（教職員や学生）などを実施した。</p> <p>(7) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』等を掲示し、24 時間閲覧や情報提供に務めた。</p>																					



医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11回
・ 研修の主な内容： ○研修医 医薬品の安全使用について 正しい処方入力について ○医師 添付文書の読み方について ○医師・看護師 TDM の考え方について ○看護師 簡易懸濁方について、IV トレーニング、 薬の基本、麻薬の適正使用及び適正管理 ○技師 医薬品の取り扱い ○事務職 医薬品の法的位置付けと取り扱い ○全職種 簡易懸濁方の現状とこれからについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ((有)・無) ・ 業務の主な内容： ○別紙『医薬品安全使用のための業務手順書』目次参照	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○医療安全管理室との定期的な情報交換・収集を行っている(1回/週)。 ○リスクマネジメント委員会の下部組織である投薬・注射 WG で医薬品の安全管理について検討している(1回/月)。 ○医薬品保管の表示の改善 ○薬事委員会下部組織の医薬品適正使用推進委員会、医薬品適正使用検討委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に繋げている。	



医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年100回以上
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器の取り扱いについて 閉鎖式保育器の取り扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて 除細動器の取り扱いについて 補助循環装置の取り扱いについて 輸液シリンジポンプの取り扱いについて など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 定期点検 (外観点検, 機能点検, 作動点検, 精度点検, 電気的安全性点検) 終了時点検 (作動点検, 外観点検) 日常点検 (ラウンド点検, 作動点検, 使用法確認) 故障時点検 (外観点検, 機能点検, 作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底, 院内院外インシデントの報告・検討) 機器設備委員会の開催 (院内インシデントの報告・検討) 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) 医療機器安全使用研修会の開催・修了証の発行 など	